

第3回熊谷市総合戦略有識者会議

議事要旨

2016. 2. 8

■議事1（人口ビジョン・総合戦略の素案について）

発言者	発言要旨
藤間委員	・市民の間では熊谷市の方向性の不透明さについての意見が目立つ。わかりやすい表現で方向性を伝えるようなキャッチフレーズ（見出し）を検討して欲しい。例えば、スポーツ交流人口を人口で割れば、国内でも有数の都市であると考えられる。そうであればスポーツ交流人口日本一を目指すとした方がわかりやすい。あるいは経済循環を更に高める手段を検討し、そうした手段を前面に出した表現にしてはどうか。 ・うちわ祭りの祇園会にて、若年人口の大幅減の見通しを紹介し、お祭りに家族で愛着を感じるような取組について祇園会を中心に行ってはどうかと提案した。他の都市ではできない郷土作りをすることが定住の肝になるのではないかな。
事務局	・総合戦略のパンフレットをはじめ、今回策定する内容をわかりやすく広報していくことを検討している。キャッチフレーズについては委員の皆様から意見を頂ければ幸いである。
大竹委員	・新幹線利用の助成や子ども医療費の無料化を目指すとの程度の財源が必要になるのか。
事務局	・東京までを仮定すると年24万円、該当する転入者を年20件と想定し、480万円程度の予算を想定している。
嶋野委員長	・医療費について年6億円かかっており、高校生まで拡大すると更に5,000万円必要となる見通しである。拡大する際の条件として、納税の滞納がないことを設ける予定である。
大竹委員	・子どもを主体として考えると、高校生になればある程度自立しているとも考えられるので、親世帯の税の完納とは切り離して考えることもできるのではないかな。高校生くらいになれば、市のサービスの受益について考えることができるようになるので、フィンランドの若者が高度な教育を受けても、国から手厚い援助を受けたことに感謝をし、自国から出て外国企業で働くことなく、国内で働き続けることを踏まえて考えると、本市においても若者に「恩返し」という気持ちを持ってもらえるように目指していくことが将来的な発展につながるのではないかな。
事務局	・関連した施策として、2-3-7で奨学金返済の利子分を補助することを掲げている。大学等を卒業した後、就労しながらの奨学金の返済が負担になっていることを踏まえ、若年層の負担軽減を図るものであるが、施策の2-3（ファンづくりを通じた転入支援）に位置づけるべきかについては検討中であり、ご意見をいただきたい。事務局としては2-1（住宅取得支援と安心して暮らせる生活環境の確保）若しくは3-2（子育て支援）、3-3（教育環境の充実）を想定している。
大竹委員	・奨学金の範囲は全ての奨学金を対象とすることか。
事務局	・その通りである。
大竹委員	・大学生の40%が奨学金を借りている現状を踏まえれば、非常に有意義な取組ではないか。
井上委員	・基本目標1に位置づけてはどうか。1-1や1-3に当てはまるのではないかな。 ・ワールドカップや上武絹の道は単独の自治体ではなく広域連携で取り組むべきではないか。そうした動きは無いのか。
事務局	・上武絹の道は群馬県富岡市からの働きかけもあり、広域的な取組として進んでいる。ワールドカップについても同様に広域的な連携が不可欠である。

時田委員	・社会動態の年 1,200 人はどこから出てきた数値なのか。
事務局	・自然動態で見ると死亡者が増加傾向にあり、出生数は微減の状態である。平成 32 年に 20 万人を維持すると仮定し、自然動態をカバーすることも踏まえると、年 1,200 人という数値が導かれる。
時田委員	・現状とかなりかけ離れているので、施策の効果から導けるか、疑問が残る。 ・転入定住を促進することを目指す場合に、例えば新幹線通勤の対象となるのはかなりアップクラスであることが想定されるので、そこに焦点をあてた施策（環境整備）とすることで効果が高いのではないかと。
事務局	・ご指摘の通り、目標値は高めに設定されているが、現状の取組とともにアンケート等から明らかになっている地域資源を活用しながら、積極的に人口問題に取り組んでいくとの意思がここに示されており、戦略を実行していく中で手段については順次見直しを図りたい。
藤間委員	・市内には居住も通勤も市内であるという目立つ若手がいる。こうした方々を更に呼び込めるような絞込みが必要ではないか。あるいはこうした方々に焦点をあてた広報も重要である。 ・空き家、空き店舗の活用は難しい時代を迎えている。商工会議所として駅近に空きスペースを借りて高齢者向けのパソコン教室を主宰している所もあるので、立ち上げの部分に行政や支援団体が強くかかわることが創業支援に必要ではないか、そうしたモデルを模索するという内容を盛り込んでどうか。
相澤委員 (代理)	・少し戻るが、奨学金についての施策は基本目標 2 に盛り込んでどうか。 ・婚活支援について市内での挙式というところまでサポートするとしてはどうか。
秋元委員	・市全体、特に子どもたちは将来に対する不安を抱えており、今回の総合戦略においては前向きになれるようにしていただきたい。
嶋野委員長	・総合戦略に限らず、通常の施策や市の業務を通じて、安心感を与えられるように取り組みたい。
飯田委員	・総合戦略の実効性を高めることが重要である。金融機関としては資金や金利の援助といったことが考えられる。例えば市の認定がある方に金融機関として支援メニューを提供するといったことも考えられるので検討していきたい。
戎居委員	・戦略は策定後が重要であり、継続的な情報発信が必要である。
嶋野委員長	・本会議を中心に、今後も効果検証をすることを検討している。